

大南の軌跡

武蔵村山市立 小中一貫校
大南学園第七小学校
学園だより No. 9
令和3年1月7日

デジタルと学校教育

校長 五十嵐 誠一

新しい年が始まりました。保護者、地域の皆様には令和三年の新年をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。教職員一同、新しい年が子供たちにとって笑顔にあふれたものになりますように力を尽くしてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

内閣の重点施策に加え、コロナウイルス感染拡大が世の中のデジタル化をさらに加速しています。学校も例外ではなく、政府のGIGAスクール構想に基づく一人一台のタブレット型端末の配置が今年度内にも行われる予定です。

日常生活におけるデジタル化は様々な社会情勢から必要であり、多くのメリットをもたらすものと思います。しかし、教育、特に学校教育の場では慎重にことを進める必要があるというのが私の持論です。

デジタル化が教育の新しい可能性を広げることは事実です。災害時や今回の感染症のように、非常時に限定的にオンラインで学習したり、不登校や病気などで物理的に教室に来られない子供の学習機会を確保できることは大きなメリットです。また、日常の学習でもドリルなどのスキルアップを目指す学習ではデジタルのもつ個別化の力が非常に効果的なものであることはすでに実証されています。

反面、教育の場に今以上にデジタル機器を導入するためには児童にも指導する教員にも行政にも大きなハードルがあります。現在の学習環境を考えた時、これらのハードルを越えてでも学習効果が上がるのか、さらには子供たちの成長を阻害するものにならないか、こういったことは慎重に考えねばならないことです。

私が特に懸念することは学び合いの基礎と

なるコミュニケーション能力の形成と読解力です。

デジタル機器はコミュニケーションの速度を上げて情報の量を増やすためには強力なツールとなります。

しかし、小学校は学び合いの土台を築く場です。そこで求められるのは子供同士が顔をつきあわせ、表情を見ながら言葉を交わし合うことです。たどたどしい意見にもじっくりと耳を傾けて聴き、会話をすることこそ大事にしたいものです。そして量は少なくとも厳選された教材や資料とじっくり向き合うことも大切ではないかと思えます。

また、デジタル教科書のように、画面上で文書や資料を読むことについては国内外で多くの研究がされています。それらに共通する結論は「紙に書かれたものを読む方が集中でき、全体像をつかみやすい。考えを深め、思考力を高めるには紙媒体が優れている。」ということでした。2018年に行われたOECDの調査によれば、紙で本を読む生徒の読解力はデジタルで読む生徒に比べて60点も高かったそうです。そして、数学者で人工知能研究者の新井紀子氏はAI時代の人間に最も求められるのは物事の本質をしっかりと読み取る読解力であると述べられています。これも傾聴に値する意見であると思っています。

デジタル化は時代の要請であり必要な変化であると思います。しかし、学校教育への拙速な導入や機器の使用ありきの教育活動はあってはならないと思います。教育の場では昔から「不易流行」と言う言葉が大切にされてきました。小学校の学習の場で本当に大切にされるべき事は何か、新しい技術の利用はそのために効果があり、持続可能なものであるのか慎重に判断し進めていくことが大切であると思います。